

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 24 年度

事業所番号	2770300867		
法人名	フラッシュ日乃出産業株式会社		
事業所名	グループホーム日乃出 (3階)		
所在地	大阪府寝屋川市宇谷町10-1		
自己評価作成日	平成 25年 2月 20日	評価結果市町村受理日	平成 25年 4月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人を中心とした 規則にはめないケア。本人の目線で、日々 より良い生活が出来るように取り組んでいる。四季折々の花が楽しめる緑豊かな日本庭園、自然に触れ合う花造り、森林浴、家庭菜園と 様々な場面で心地良い時間を過ごしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2770300867-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が、地域への貢献を第一に福祉の勉強をし、民間企業での経験を活かして設立されたグループホームです。寝屋川市で一番最初に設立されたグループホームであり、見学者を受け入れ、先駆的な役割を果たしてきました。敷地内には、四季折々の草花及び果物の収穫が楽しめる緑豊かな広い日本庭園があります。管理者は、民間企業での感覚を大事にして、「利用者・家族の立場に立ち、普通に接する」ことの大切さを職員に伝えています。その思いは理念にも反映されており、ホーム内に笑い声が響きわたり、利用者は笑顔が絶えない暮らしを実現しています。「職員のチームワークの良さは、働きやすい職場環境を作り、それが、利用者にとって居心地のよさをつくっている。これが私たちの自慢です」と職員が誇らしく語るグループホームとなっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 3月 16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で、明るく、大きな声で、腰を低く」「笑顔とふれあいの家」という理念を掲げ、各会議時・朝礼時に唱和している。	「笑顔で、明るく、大きな声で、腰を低く」「笑顔とふれあいの家」という理念を毎日朝礼で唱和し、職員間で共有しています。一緒に唱和する利用者もいます。理念を実践しており、ホーム内には笑い声が響き、利用者は笑顔が絶えない生活を送っています。理念は面会簿の表紙にも書いており、家族にも理解を得ています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩コースは、地域公園を中心に行っている。小学校の運動会イベントに参加している。子供110番の設置。行事の餅つきに近隣の方を招いている。花火大会にも参加の声掛けを行った。	ホーム周辺はマンションや倉庫群が立ち並んでおり、利用者は近隣の公園を中心に散歩をしています。隣のマンションの方からは、花の水やりの際や利用者の外出時に声をかけてもらう等、交流があります。隣の小学校の児童からは、敬老の日に手紙をいただき、お礼にカードや庭で収穫した栗を職員と一緒に届けたりして交流を図っています。行事の餅つきや花火大会には、地域の方に参加を呼びかける等して交流を進めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	電話等での相談に応じている。(入所希望者に限らない)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、利用者家族・近隣施設職員・包括支援センター・民生員を招き会議を開いている。意見や情報の交換を行い、会議録を回覧し、ご家族へも配布を行い、情報の共有を図っている。	運営推進会議は、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣施設職員、管理者、職員等で構成されており、2カ月に1回開催しています。ホームからは、行事、防災、利用者の現況、人事等の報告を行い、地域包括支援センター職員からは、お知らせを伝えてもらいます。家族から質疑応答などがあります。家族が会議に参加しやすいよう、土日等に開催する工夫や、会議録を請求書に同封し送付しています。また、利用者・家族がいつでも会議録を確認できるよう、ファイル綴じてカウンターに置き、情報の共有化を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一回は、広報誌を持って行くことにより情報交換・コミュニケーションを取っている。府にも開設当初と同様に広報誌を持って行っている。	市内第一号のグループホームということで、見学者の受け入れ等、先駆的な役割を果たしてきました。その関係で、市との連携・関係は密になっています。ホーム通信は府や市にも届け、情報交換の機会にもなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>機会があれば外部研修に参加している。一時的に拘束が必要な場合には、家族にも現状を説明し、理解を頂いた上で承諾書をもっている。定期的に必要な性を検討し、継続するかどうか決定している。一人で外出をしそうになった時等は、そのまま散歩に連れ出し気分転換を図っている。</p>	<p>日中玄関の鍵は掛けていません。身体拘束のないケアを目指していますが、一時的に拘束が必要になった場合には、家族と相談し、理解を得た上で承諾書をもっています。定期的継続が必要かどうか検討することになっています。高齢者虐待についても毎年、勉強会を開催しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>資料の回覧をしている。職員は、お互いに気を付けるよう努めている。会議では、事例検討資料を参考に日々のケアを見直している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>機会があれば外部研修に参加している。必要な方は、家族の問題であり、当施設では 関わらないようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>見学時や契約時に十分説明し、理解を得られた方のみ入所されている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面接時等に耳を傾け、意見を聞いている。面会簿にも家族からの意見を記入出来るようにしている。</p>	<p>家族の面会時には、利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いています。2カ月に1回の広報誌発行では、利用者一人ひとりの様子を伝えることで、家族からの要望が出しやすくなるように働きかけています。管理者は、『常に、「自分が利用者の家族だったら」という意識を持つように』職員に伝えています。新しく入居された利用者の家族には、入居翌日に、利用者の様子を家族に伝え、安心してもらっています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロア会議・主任会議・合同会議を月1回行い取り組んでいる。</p>	<p>毎月のフロア会議、合同会議等で職員は意見を出し合っています。管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気大切にしています。「職員の仲の良さが、働きやすい職場環境を作り、それが利用者の居心地の良さをつくっていることが、私たちの自慢です」と職員は誇りに思っています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>昇給や、資格試験受講料50%施設負担にしている。コンサート等へ参加した際は、チケット代金を補助している。又、誕生日には、ケーキのギフトカードのプレゼントを行っている。年3、4回の食事会を行うようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修費等、必要に応じて実施している。フロア会議・合同会議で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	基本的な考え方が違う為、出来ない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と別で面接を行い、本氏の声を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に十分な時間を取り話し合うようにしている。必要があれば電話相談にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所やデイサービス等の利用も含め、何が本氏にとっていいのか検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の型にはめず本氏がその人らしく表現出来るよう一人一人が出来る事を尊重し、支援を行っている。利用者・職員共に笑顔が見られる事を重要点としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見等の行事への参加。面会・外出・外泊等 家族との絆がきれないように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会も家族の時と変わらず行ってもらっている。本氏や家族の希望は出来る限り協力するようにしている。	馴染みの友人・知人がホームを訪問しています。元同僚からの電話もあります。馴染みの関係が途切れないように、職員も支援しています。また、入居後の新たな馴染みの関係も大切にしたい、利用者同士の人間関係も大事にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者には談話の場を作ったり、会話が得意でない利用者には職員が会話を促したり、問題発生時には解決に取り組むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的関わりは、家族の問題と捉えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人の希望を捉えるようにしている。可能な事は、生活に反映させている。	事業所独自のアセスメントシートで、本人の情報収集を行っています。アセスメントは3ヵ月毎に見直しを行っています。ケース記録・身体記録用紙に、毎日一人ひとりのサービス内容や状態を記録しています。	ケース記録に利用者一人ひとりの毎日のサービス内容が記録されていますが、日常の関わりの中での発見や気づきを記録に残し、職員間で共有し、よりその人らしい支援に活かされることが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少期～年代別にあった事項を記入してもらっている。これらを基にコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を記録に残し、フロア会議・ケアカンファレンス会議により毎月見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成者を中心にアセスメント、モニタリングを行い 月一度のカンファレンスで意見交換を行っている。結果を介護計画に反映させている。家族に対しては、定期的に説明を行い理解を得ている。日々の記録にプラス面の評価を記入し家族へも伝える事が出来ている。</p>	<p>利用者・家族から思いや希望を聞き取り、サービス担当者会議で検討し、介護計画を作成しています。月1回のカンファレンスで意見を出し合い、モニタリングを行い、見直しは基本的に3ヵ月毎に実施しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>本人の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>主任と計画作成者が主となり、毎月フロア会議・カンファレンスを行い意見交換をし、個別のカンファレンスシートを作成している。欠席者に対しては、会議録・カンファレンスシート・連絡帳を回覧している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>可能な限りニーズに答えるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>市、行政の意識が低いように考える。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の内科往診・PT と三ヶ月毎の歯科往診を行っている。又、受診や通院は、基本的には看護師が同行するが、家族の協力もお願いしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診している利用者がいます。通院も必要に応じてホームで支援しています。ホームの協力医により、月2回の内科往診及び、3ヶ月毎に歯科往診があります。夜間の緊急時には、職員である看護師に連絡し対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師が中心になり、職員全員で利用者の体調を把握するようにしている。往診 Dr.とは常に情報交換が出来ており、緊急時にはすぐに対応するように体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者、看護師が主に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「出来る事・出来ない事」は基本的に決めていて、家族には契約時に説明している。職員にもその都度方針を説明し共有出来ている。</p>	<p>看取りに関する指針を作成していません。重度化した場合について「出来ること・出来ないこと」を説明し、意向を確認しています。終末期をホームで過ごされる場合もありますが、結果的には入院される事例がほとんどです。看取りの原点のマニュアルを使って、職員間で学習していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>月一回のフロア会議・合同会議で勉強会や実践講習を行っている。いつでもすぐに見られるようにマニュアルも備えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っている。月一回は各フロアで 避難時の言動を確認している。近隣の方へも非常時に協力して頂けるよう話し合っている。夜間の連絡体制も整えている。スプリンクラーも設置している。	年2回避難訓練を行い、消防署にも報告しています。スプリンクラーも設置しています。火災や災害時の利用者誘導を、より安全に効率よく実施するために、各居室入口に「避難済」の札を設置し、全員が確認できるように職員で工夫して作りました。コンセントからの出火を防ぐため、月1回は埃を払うことを続けていましたが、長崎県のグループホーム火災事故をきっかけに、コンセントはもちろん、奥に入り込んでいる、ベッドや私物の冷蔵庫のコンセント周りも確認し、掃除しました。非常災害時の水や食料品等の備蓄もあります。	今後は、災害発生時の対応マニュアルを整備し、さらに利用者の安全な暮らしに繋げることが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等でも重ねてプライバシーの保護について注意している。個人情報の取り扱いにも留意し、守秘義務について職員は十分理解できている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、年長者としての敬意を払うことを念頭に置き、対応しています。職員は、利用者から学ぶことが多いと感謝しています。グループホーム利用者の権利10カ条を事業所内に掲示していますが、1項目に、「個人として尊重され、プライバシーを保ち、尊厳を維持する権利」を掲げています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、その人らしさが引き出せるように努めている。レクリエーション等は「やりたい事」を選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り本氏のペースを大切に支援を行っている。強要や無理強いはないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては、本氏の好みに合わせて衣類を選んだり、選んでもらったりしている。理美容に関しては、家族の理解を得て 当施設内にて訪問理容で対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、後片付けは利用者の出来る範囲で一緒に行っている。利用者と同じテーブルで職員も食事を行い、常に利用者のサポートが出来るようにしている。BGM による雰囲気作りを行い、盛り付けも工夫している。	献立は、利用者の好みを取り入れ、職員が作成しています。食事の準備の音や匂いは、家庭的な雰囲気をより高め、利用者は食事を楽しみに待っています。ご飯の美味しさにこだわり、石川県から取り寄せたコシヒカリの米を使っています。BGMによる雰囲気作りは、食事の楽しみをよりよくし、利用者の表情に現れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、その人に合わせた形態にて提供する事により、完食してもらう事を目指している。水分補給については、糖分・塩分に気を付けた上で、好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、月1回の口腔チェックを行い記録に残している。定期的な義歯洗浄を行い、歯科往診も3カ月に一回行ってもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、個々の排泄パターンを把握するようにしている。パット類は使用するが、トイレでの排泄が出来るように心がけている。	全員トイレでの排泄を実施しています。誘導が必要な利用者には、排泄チェック表で状況を把握し、随時声をかけながら誘導しています。声かけは、プライバシーに配慮して、さりげなく行っています。パッドを使用していた利用者が、排泄パターンの把握による誘導で、トイレでの自立に繋がった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、毎日のラジオ体操・歩行運動、便秘の解消に繋がる食事内容にする等、予防に取り組んでいる。トイレ時の腹部マッサージも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のペースに合わせ、ゆっくりとした入浴に努めている。気分がのらない時は無理強いせず翌日に変更したりしている。夜間の入浴には対応していない。	週3回の入浴が基本です。入浴を好まない利用者には、無理強いせず、声かけの工夫などで入浴してもらうようになっています。浴室・脱衣室もゆったりとしたスペースで、安心して入浴できる環境となっています。改装の際は、浴槽や壁の色をピンクにして、より入浴を楽しんでもらうように工夫しました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を記録に残している。不眠等ある場合は、その都度 看護師と相談し、さらにフロア会議・カンファレンスで検討し 安眠できるように支援方法を工夫していく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会議にて内服薬等の確認をし、看護師が管理を行い、スタッフと情報を共有出来ている。何度も話し合い、改善に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションに使う物作り・食器の後片付け・掃除機掛け・モップ掛け・洗濯物の片付け等に参加してもらっている。庭の散歩・喫煙は、職員が見守りをして行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩コースを地域の公園周りにしている。天気の良い日は、庭でおやつにしたり、ベランダへ出て日光浴をしながら歌をうたったりと外出気分を味わってもらっている。緑地公園や成田山初詣・紅葉ドライブと遠出の行事も盛り込んでいる。	敷地内にある広い日本庭園には、日常的に出ることができ、日光浴を兼ねて庭でおやつを食べることもあります。花々や木々を見ることは、利用者の楽しみとなっており、季節を感じる機会になっています。地域にある公園の周りへ散歩にでかけることもあり、季節毎の外出も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には お金を所持してもらっており、公衆電話や買い物、家人への小遣いに使われることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者より希望があれば公衆電話の使用等対応している。家族の希望により再三の求めには応じない場合もある。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画や飾りつけを行い殺風景にならないよう工夫している。日当たりの良い窓辺にソファを置き くつろげる空間を作っている。	窓から眺める日本庭園は、四季折々の風景を楽しむことができます。建物の構造上、各ユニット、テーブルの配置や装飾に工夫しています。リビングにはソファが置かれ、利用者がくつろいでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル以外にソファを置き、利用者が団らんでできるようにしている。利用者の言動をひろい、本棚や物入れ 時計等の配置を行い趣味の活動をしやすいようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を家人に伝え、面会時に話し合っている。季節に応じて居室にも壁画を飾り、楽しんでもらえるよう工夫している。	本人の希望を尊重し、本人が一番落ち着くように、その人に合った居室作りを心掛けています。持ち込みは自由で、ソファーやタンス、テレビ、冷蔵庫、机等、馴染みのものを持ち込み、その人らしい安心できる居場所になっています。絵が得意だった利用者のスケッチブックが居室にさりげなく置かれるなど、その人の人生に思いを馳せる支援が実践されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり等で対応している。トイレ等には 目印をつけ分りやすくしている。		